

モホークの太鼓 (1939)

DRUMS ALONG THE MOHAWK

メディア 映画

ジャンル 西部劇

製作国 アメリカ

時間 103分

初公開日 1949/09/20

公開情報 セントラル

【解説】

本邦初演の時はモノクロ公開で、そのためフリッツ・ラングの「西部魂」ともども大いに割を喰ったと言われる、J・フォード初のカラー作品。B・グレノンとR・レナハンのテクニカラー撮影はそれこそ本作最大の眼目で、フォードにしては演出に締まりのない部分もあるが、眩い色彩に目を奪われているうちに忘れてしまう。独立戦争勃発の1776年、NY州オルバニーで式を挙げ、夫の開拓したモホーク渓谷の農場に下ったギルとラナのマーティン夫妻。妻は初めこそ理想と現実のギャップに悩んでホーム・シックになったが、温かい周囲の人々の援助もあって、懸命に開墾に精を出すうち遅くなる。当地にも戦争の影響は届き、英軍に雇われたインディアンが度々彼らや近くの集落のジャーマン・フラットを襲った（首謀者コールドウェルをアイパッチのJ・キャラダインが演じ、不気味に印象的）。ギルたちの家も焼かれ、一旦、二人は夫婦してマクレナー夫人（まさにフォードその人のごとく竹を割ったような気性の好人物をE・M・オリヴァーが快演。本作最良の収穫だ）の農場に雇われる。そして、最初の出征。多くの犠牲者を出しながら勝利を納めたが、彼らの襲撃は止まらなかった。そんな中でも、以前の流産の悲しみを乗り越え男児を出産したラナ。その喜びの時を前にひたすらうろたえるギルの描写がさすがにフォード、実にうまい。やがて、町を挙げての戦いの火蓋が切って落とされた……。ギルが伝令となって援軍が来る辺りの描写は単調だが、戦闘シーンは凄まじい迫力。が、それより、開拓者夫婦の愛情劇としてみるものが多い。

【クレジット】

監督	ジョン・フォード	John Ford
製作	ダリル・F・ザナック	Darryl F. Zanuck
	レイモンド・グリフィス	Raymond Griffith
原作	ウォルター・D・エドモンズ	
脚本	ラマー・トロッティ	Lamar Trotti
	ソニア・レヴィン	Sonya Levien
撮影	バート・グレノン	Bert Glennon
	レイ・レナハン	Ray Rennahan
出演	クロードット・コルベール	Claudette Colbert
	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda
	エドナ・メイ・オリヴァー	Edna May Oliver
	ジョン・キャラダイン	John Carradine
	ジェシー・ラルフ	Jessie Ralf
	アーサー・シールズ	Arthur Shields
	ロバート・ロウリー	Robert Lowery
	ウォード・ボンド	Ward Bond
	フランシス・フォード	Francis Ford